



2009(平成 21)年 1 月 29 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社  
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号  
代表取締役社長 鈴木 一夫  
(コード番号: 東証第一部 5012)  
問合せ先:  
エクソンモービル有限会社  
広報渉外部  
Tel: 03-6713-4400

### 東燃ゼネラル石油(株) 平成 20 年 12 月期 通期業績予想修正に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 20 年 11 月 14 日に発表した平成 20 年 12 月期 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日) の連結および単体業績予想を以下の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

#### 1. 平成 20 年 12 月期 通期業績予想の修正

連結業績予想 :

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
今回修正予想 (A)	3,272,400	121,700	131,300	79,300
前回発表予想 (B)	3,300,000	49,000	56,000	36,000
増減額 (A-B)	△27,600	72,700	75,300	43,300
増減率	△1%	148%	134%	120%

(B)平成 20 年 11 月 14 日発表

単体業績予想：

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
今回修正予想 (A)	3,260,800	102,800	117,300	72,600
前回発表予想 (B)	3,200,000	29,000	41,000	28,000
増減額 (A-B)	60,800	73,800	76,300	44,600
増減率	2%	255%	186%	159%

(B)平成 20 年 11 月 14 日発表

## 2. 修正の理由

平成 20 年 12 月期の連結営業利益は、平成 20 年 11 月時点での予想より 727 億円増の 1,217 億円となる見通しです。

石油業界では一般的に、会計上、原油調達コストを原油が到着した時点で認識するのに対し、当社は積荷時点でこれを認識するため、原油価格の変動を他社よりも約 1 ヶ月早くコストとして認識することになります。このため、過去数年のような、ほぼ継続的に上昇基調にあった原油価格の局面においては、国内製品価格が上昇する前に、高い原油価格が会計上の原価として認識されることとなり、当社の収益を圧迫していました。この会計上のコスト認識時点の違いにより、平成 20 年下期以降、特に第 4 四半期の急激な原油価格の下落は、結果として過去の収益圧迫を一気に解消させる形となりました。

昨年 11 月予想時点では、10 月後半の市場価格をもとに、この原油価格の下落に伴うプラスの影響額は約 360 億円と予想しておりました。しかし、前回予想以降の原油価格の更なる下落により、結果として、会計上の認識時点の違いによるプラスの要因は、約 1,000 億円になると見込んでおります。

平成 20 年 12 月期の単体営業利益は、平成 20 年 11 月時点での予想より 738 億円増加の 1,028 億円となる見込みで、上記連結営業利益と同様の要因によるものです。

なお、1 株あたり年間 38 円の配当見通しについては変更ありません。

以 上